

# 障害児通所支援における新たなコグトレを用いた訓練の試み

～子どもが家庭・学校・地域で生き生きと生活できる支援を目指して～

横浜市青葉区あざみ野

特定非営利活動法人アントワープカウンセリングオフィス

代表 管理者 野中 友美

## 1. はじめに

障害児通所支援とは平成24年4月に児童福祉法（昭和22年法律第1.64号）に位置づけられた新たな支援である。事業所には発達障がい未就学児から18歳までの子どもたちが通っている。発達に問題がある子どもたちは認知機能のばらつきや弱さがある。「コグトレ」の本に出会い担当ケースに導入した。さらにスタッフも初級、中級コグトレ・トレーナーを取得し、小学生から成人に個別支援、認知ソーシャルスキルトレーニングの集団支援、幼児（年長児）の就学前療育にも導入している。コグトレ(CogTr-e)は、認知〇〇トレーニング(Cognitive 〇〇 Training)の略称で、①社会面・・認知ソーシャルトレーニング(Cognitive Social Training: COGST)②学習面・・認知機能強化トレーニング(Cognitive Enhancement Trainig: COGET)③身体面・・認知作業トレーニング(Cognitive Occupational Training: COGOT)の3つのトレーニングからなっている。通所訓練に新たにコグトレを導入し、徐々に児の行動や言動に変化がみられ支援者、保護者からも効果の声が聴かれている。問題行動の子どもたちが生き生きとした生活が送れるよことを目指し、今回、コグトレの実践と事例の成果を報告する。

## 2. 事例や取り組みの紹介

**事例:** Sくん、小学5年生男児 広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）

**経緯:** 母親が1歳半でおかしいと気づいていたが療育は受けていない。幼稚園では本児ができないことは、年長まで全て母親がフォローしていた。小学校にあがり、通級併用となるが効果がないと辞め、学習塾、お稽古に通わせていた。他者の話を聞いていない、理解していない、待てない、学力テストがほぼ0点の状態であった。小学校1年の頃から両親は育てにくさから叱責が強かった。両親が殴る行為となり、母親自身がSOSを出した。Sくんは区役所の子ども家庭支援課、児童相談所より母親の神経症所見および虐待が疑われることから要保護児童となる。子育て支援の必要性和通所支援の必要性があることから放課後等デイサービスで当事業所へ入所となった。母親にはカウンセリング、ペアレントトレーニング実施。本児には平成28年3月入所時個別支援（心理療法開始）、集団の放課後教室も開始された。小学校でも問題がある家庭であり、学校へ巡回訪問として保育所等訪問支援も開始となる。平成28年10月より個別支援にてコグトレ導入し開始。本児はやる気が徐々に出てきて正解時は「よっしゃ！」と喜ぶ場面が多くなる。誉められることが増え本児の不注意に気を付ける意識が認められた。小学校でも授業態度や行動にも変化が見られ、発言が増えてきた。

他者とのコミュニケーションがうまく取れるようになり、自己表現も豊かになった。その後、学習支援、SSTなどの支援が併用する。体育の苦手さがあり、認知作業トレーニングを導入開始している。母親と話し合っ、やや落ち着きがない、不注意がある点から内服も開始している。

**効果：コグトレ前** 就学前検査、知能検査（WISC-IV）所見

IQ 80 言語理解 99 知覚推理 80 ワーキングメモリー 68 処理速度 83

**コグトレ実施後** 小学3年12月 知能検査（WISC-IV）

IQ 95 ↑ 言語理解 91 知覚推理 98 ↑ ワーキングメモリー 88 ↑ 処理速度 107 ↑

母親がこの結果を持参して、「コグトレが開始されてから児が変化してきた。」「人の話を聞けるようになった。」「学校でも問題がなくなった。」「テストはもう少し点を取ってほしいが・・・」と嬉しそうに語った。

**その他の取り組み：** 通所の子どもたちへの取り組み

対象：自閉症スペクトラム、ADHD。ボーダー域。

導入方法：

① 幼児期（年長児）：対象児4名。1時間セッション中30分。就学前プログラムの机上課題に「見る、聞く、想像する認

知機能」トレーニングを用いている。運動課題には認知作業トレーニングを導入し身体の動かし方を練習している。

② 小学生：個別療育対象者19名、中学生：個別療育対象者 9名、高校生：個別療育対象者 2名、成人（20歳）：個別療育対象者 1名

1時間セッション①覚える、②写す、③見つける、④数える、⑤想像するの5つのトレーニングから構成される認知機能強化トレーニング及び認知作業トレーニングを併用している子どももいる。

③ 小学生：集団療育対象者 12名1時間セッション。

認知ソーシャルスキルトレーニングの実施。対人関係、コミュニケーション、社会性の課題に認知機能の弱い課題を追加。1時間セッション中 認知課題15分。認知作業トレーニングを15分。

### 3. 考察

当事業所は個別支援から集団支援にコグトレを導入し、支援者が児のモチベーションを高め維持できるよう応用行動分析などの手法も用いている。コグトレは問題行動がある、トラブルが多い子どもたちの、みる力、きく力、見えないものを想像する認知機能の基礎力が身に付き、日常生活や学校生活が円滑に送れるようになる必要な支援の方法であると考えている。事例のSくんの支援は、これまで様々な支援方法を用いてきた。最初に愛着基盤の信頼関係の形成の支援を主とし、その後にコグトレを導入し、著しくSくんが意欲的取り組み、生き生きとした表情となり、著しく変化した。さらにコミュニケーション、対人関係、社会性のソーシャル効果へ繋がった。また、本児を取り巻く環境においても、母親への支援や学校への支援も併用しており効果性がさらに高かったとも言える。今や家庭、学校、地域で生き生きと活動するSくんがいることは、私たち支援者にとって何よりのご褒美である。

### 4. おわりに

当事業所は、さらなる良い支援ができるようスタッフと共に研修会や勉強会などを積み重ね、実践の振り返りを中心に子どもに合った訓練方法などの提供に努めている。障害児通所訓練の支援が今後、障がい児の子どもたちが日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、集団生活に適應することができるよう、適切かつ効果的な指導及び訓練を提供できるよう、何より、子どもや保護者、支援者が生き生きとした笑顔で生活できる福祉支援を目指していきたい。